

Heuzey, Léon

Histoire du costume antique; d'après des études sur le modèle vivant.

Paris, Librairie Ancienne Honoré Champion, 1922. (文献番号 3-99)

Hiller p.430 Colas 1442

ウーゼイ著

古代服装史；実物モデルの研究による

古代の服装史料に基づいてドレーパリーの再現を試みたものを中心とした服装史である。

内容は、仏の考古学者エドモンド ポティエ (E. Pottier) の前文、著者自身による古代ドレーパリー全般に渡る起源、慣習、美、種類などを論述した序文及び7つの章の本文からなっている。本文の各章では、1.ギリシアのエクソミス、2.ギリシア男性のチュニック、3.ギリシアのドレーパリー式外套、4.ギリシアのクラミュス、5.ギリシア女性のペプロス、6.ギリシア女性の亜麻布のチュニック、またはイオニア式チュニック、7.ローマのトガ、を扱っている。

前文によれば、著者ウーゼイは古代美術史、オリエント考古学にも秀でて、更に若い芸術家の育成にも力を注いだ学者であった。彼は古代のドレーパリーは、第1に独自の形、または特定の着用者に合わせた形を持たないこと、第2に裁断・縫製がなされていないことをその二大特性とし、従って、実際に生きた人間が身につけている場面においてのみドレーパリーが存立するといひ、それが古代の理解のために古代服飾を復元するに至った大きな要因だと語っている。本書発行以前にもこうした試みはすでにいくつか発表されており、演劇界に資するところ大であったとポティエも述べている。

150枚の図版は、生身のモデルが種々の典型的ドレーパリーをまとっている姿（中には古代の絵画や彫像のそばで、同じポーズをとっているものもある）や、古代の史料を示している。

著者は、他に「古代のドレーパリー論」(Du principe de la draperie antique) (1893), 「古典古代の服飾史——オリエント；エジプト、メソポタミヤ、シリア、フェニキヤ」(1935) (文献番号 3-110) も著わしている。

図は本書の口絵。モデルに巻衣の着つけをするウーゼイ。

